

☆過去に支えられる

私たちは常に未来に向かって生きています。そして、過去はどうがんばっても変えられませんし、過去に戻ってやり直すことはできません。振り返って悔やんでみてもしょうがないのかもしれませんが、しかし、未来に向かって進んでいる私たちは、実は、過去の出来事を思い出しながら、反省しながら、あるいは、過去に励まされながら生きています。

「あの時、あんなことを言わなければよかった。もう二度と友だちにあんなことを言うのはやめよう」とか「あの時にがんばったから、今回こんなに良い成績が取れた。次もがんばろう」とか…。

今までに何度か同窓会に呼ばれたことがあります。教え子たちは皆、立派な大人になり、良いお父さん、お母さんになっています。そして、当然のことですが、その時におしゃべりに花が咲くのは、中学校の頃の思い出です。誰かの失敗談や笑い話、あの時言われた言葉に腹が立った、いや、そんなことは言ってない、などなど。ほんの小さな出来事が懐かしく思い出されます。



中でも特に盛り上がるのは部活動や行事の話題です。先生に叱られた話、厳しい練習が伝わった話、がんばって優勝した時の喜び、いくら努力しても歯が立たなかった悔しさ、皆と一つになった感動…。私の立場からすると、「そんなに努力してたっけ?」「もっとがんばれたんじゃない?」と思う部分もありましたが、生徒だった頃の思い出を熱く語り、盛り上がる姿は微笑（ほほえ）ましいものです。

さて、そんな教え子たちに共通するのは、「**あの時、自分は一生懸命にがんばった**」という思いです。私から見てどうだったかは別として、皆が、苦しみながら、失敗しながら、先生に叱られながら、クラスがまとまらず泣きそうになりながら、仲間同士でケンカしながら、がんばってくれない子を説得しながら、それでも最後はまとまって、全力を出し切ったという思い出が、大きくなってお父さんお母さんになった今でも、良い思い出として残っているのです。



私たちは未来に向かって進んでいますが、その**未来は今まで通ってきた過去に支えられています**。「よくがんばった」「必死にやった」「一つになれた」など、自分なりに努力してきた思い出は、結果はどうあれ、自分の自信になり、自分を支える大切な人生の1ページになります。

優勝は1チーム、1クラス、あるいは一人だけですが、「一生懸命にがんばった」という思い出は、全員に味わうチャンスがあります。たとえ悔しい結果に終わったとしても、もし、あなたが、今を大切にして一生懸命に努力したのであれば、それは、今後あなたを支える素晴らしい思い出になると思います。

☆気合いと根性

ずいぶん昔の話ですが、私が中学生の頃は、部活の練習中に「水を飲むな」と言われました。長い練習の後に休憩時間を取りますが、その時だけ水を飲むことができました。



以前、バラエティー番組を見ていたら、ある有名なサッカーの名門校の部員だったお笑い芸人が、「何時間も水を飲まずに練習をして、本当に苦しくなると、雨上がりの日は、わざと水たまりのある場所でスライディングをして、見えないように水たまりの水を飲んだ」という話をしていました。面白おかしく話していたので、こちらも笑いながら見ていましたが、よく考えるとすさまじいなと思います。その他にも、昔は当たり前のようにやっていた「うさぎ跳び」というつらい練習も、膝（ひざ）を壊（こわ）すという理由で今ではやらなくなりました。

今はスポーツの世界も科学の進歩により、効率的で効果の上がる練習が考えられるようになりました。用具やユニフォームも進化しましたし、選手がプレッシャーに負けず、自信を持てるように、精神的なトレーニングも取り入れられるようになりました。昔のように「気合いだ!」「根性だ!」と言わなくなったような気がします。(アニマル浜口さん以外は…)



私がサッカー部顧問だった頃、東京で行われたサッカーの勉強会に行ったことがありました。当時はJリーグが始まったばかりの時点で、その講習会には「名古屋グランパス」の監督や「ジェフユナイテッド市原（今のジェフ千葉）」の監督も講習を受けに来ていました。講習の後は、外国から招待したコーチが実践練習の模範を見せて、質問に答えるという形で勉強会は進みました。

その時、ある若い方が、こんな質問をしました。

「あなたは、どのようにして、『絶対に勝つぞ』という闘争心を選手に植え付けているのですか」

外国のコーチはちょっと困った顔をしながら通訳に説明すると、通訳の方が次のように言いました。

「あなたのおっしゃっていることの意味がよく分からないのですが」と前置きした上で、「『勝ちたい』という気持ちや闘争心というのは元々あって当たり前で、こちらが選手に植え付けるものではない。」

これには、その場にいた人たちが皆、黙り込んでしまいました。私たちは、新しい練習方法や最新の技術を学ぶことに頭がいっぱいになってしまっていて、何か大切なものを見落としていたような気がしました。

「負けないぞ」という強い気持ち、「必死」で取り組む姿勢が、まず土台にあって、その上で、さらに強くなるために最新の技術や練習方法に取り組んでいるのであって、「勝ちたい」という気持ちが無い選手はそもそも戦う場にはいない、ということなのかなと思いました。

もちろん、中学校では、まず日常生活をしっかりすること、結果だけではなく、日頃の積み重ねが大切であること、心の部分が重要であること、など、勝ち負けではなく、結果以外の部分をととても大切にしています。

ただ、運動部でも文化部でも学校の行事でも、「強くなりたい」「うまくなりたい」「試合に勝ちたい」「大会でいい結果を出したい」という気持ちや「負けないぞ!」という強い気持ちも大切なのだと思っています。

